

2013年 9月6日

未来への扉

高等特別支援学校 支援部 第51号



「酷暑」も一段落、2学期がスタートしました。このほか暑かった今年の夏、皆様どのようにお過ごしでしたでしょうか。

季節はこれから次第に「秋」へと向かいますが、まだまだ日中は暑さが残ります。体調を崩しやすいこの時期、自分の体としっかり相談しながら、健康で元気な毎日を過ごしたいものです。



特別支援教育講演会のご報告

去る8月21日、三田市総合福祉保健センターで、本校の特別支援教育講演会が行われました。講師に竹田契一先生をお招きするという事で、我々職員も緊張しながら準備を進めました。当日は、三田市内外から180名ほどの方々にご来場いただき、盛況のうちに講演会を終えることができました。

講演会の資料（竹田先生のもの）を、本校HPにてアップさせていただいております。当日講演会に来られなかった方も、HPから資料をダウンロードしていただけます。

さて、今回の「未来への扉」では、いくつかのキーワードを中心に、講演を振り返ってみたいと思います。

《ソーシャルスキルについて》

ソーシャルスキルとは、人の気持ちが分かり、良好な人間関係を作るために必要な知識やコツのこと。

この方法さえ知っていれば、という万能



なカードはなく、周りの人が、どれだけ忍耐強くその子に寄り添っているいろいろな方法を模索できるか。根気強く付き合い、決してあきらめないこと。



小学校時代は「人の話をしっかり聞く」と教えるが、親や先生が人の話を聞けない場合も…。特に先生はお説教好きだが、説教は子どもに嫌われるだけ。命令は子どもの反抗心をよぶ。本人の言い分を聞いてから、どうすればよかったのか、本人が理解できる方法で示すこと。

高校生では就労を視野にライフスキルの獲得も必要。（金銭感覚・時間の管理・社会人としての身だしなみや挨拶・食事の支度など必要な家事…等）

《障害と特性》

そもそも「こだわり」は悪なのか？「こだわり」を持っているからこそノーベル賞を取ることができた科学者、こだわりのたまものである芸術作品、イチロー選手のポーズや食事に対する数々のこだわり…。

「こだわり」は「特性」であって、「障害」ではない。「障害」はその子どもに関わる環境との相互作用であり初めから障害なのではない。そして、我々自身（学校・教師・親）がその「環境」の大きな要因である。



《心の理論》

「心の理論」とは、他人の立場や心情を推し量ることができる力。この力が弱いと、他人の視点に立つことができない、ことば通りに受け止める、場面理解が弱いなどの困難が出てくる。

「お風呂見てきて」と言われたら、本当に見に行くだけ。電話で「お母さん、いますか」と聞かれたら「います」とだけ返事。「本当ですか」のニュアンス（イントネーションの違い）が、驚きなのか、疑惑なのか、納得なのか分からない。いわゆる「空気を読む」ことができないので、会社の面接場面で「社長さんのネクタイ、趣味

が悪いですね」と口にしてしまい、内定を取り消されてしまった事例も。ひとつひとつ丁寧な説明が必要。

《恥ずかしいという気持ち》

思春期の問題として、羞恥心の発達が遅れることがある。「恥ずかしい」という気持ちは他者から見られているという感覚があって生じる感情。男の子の性に関しては、父親の役割が大切で、1～10まですべて伝える必要がある。父親がいなければ、男性教師の出番。

《メタ認知の大切さ》

「メタ認知」とは、自分を客観視できる力。また、自分の強み・弱みがわかる力。



何でも一番にならないと気が済まないのは良くない。「世の中厳しいねんで。2番や3番もありや。」（ゲームの勝負がわかりやすい）。テストでは100点（点数）を褒めるのではなく、頑張ったこと努力したことを褒める。



竹田先生の豊富な経験に裏打ちされた講演およびその後の質疑応答は、先生のお人柄を反映した温かいものでした。本校の報告に対する助言では「自立に向けて今、何をすべきか、という視点を持っていることが大切」と本校の方針を後押しして下さいました。

保護者の方々と、「この子たちをどんな大人にしたいのか」という共通の思いで、力を合わせていきたいと思います。

最後になりましたが、会の準備その他で、PTAの方々にも大変お世話になりました。

（支援部 近藤・聳城）

